



謹賀新年

新年挨拶 2~4
第27回 JA北海道大会開催される 5
TPPの影響を考える 6
2012ホルスタインウインターフェア
川崎正幸さん 佐藤孝一さん
2012北海道ホルスタインナショナルショー(ジャージー種)
シニア・ジュニアチャンピオン受賞祝賀会 ... 7
第43回広尾毛がにまつり 8
第14回ミルクフェスティバル
コンプライアンス研修会開催 9
車両整備工場技術講習開催
囲いわな設置される

第37回 JA十勝青年部大会開催 10
青年部の農薬空容器回収
青年部学習会 11
青年部視察研修
すみれ会観劇温泉旅行
すみれ会秋期親睦会開催 12
女性部料理講習会
「営農計画書」の提出はお早めに
理事会 13
豊似給油所イルミネーション
食のはなし 14
表紙インタビュー・占い 15
背表紙 (役員名簿) 16

新年の挨拶



広尾町農業協同組合代表理事組合長

萬亀山正信

輝かしい新春をご家族皆様で迎えられたことと存じ、心からお慶び申し上げます。また、旧年中は当JAの運営に對しまして特段のご理解とご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は春先の不安定な天候により、春耕作業が大幅に遅れ、その後の農作物の生育が心配されたところでありましたが、6月以降は気温も高く、比較的安定した天候が続き総じて平年以上の収量を確保することが出来ました。また、生乳生産においては数戸の方

が生産を中止する中、規模拡大や飼養管理の徹底などにより昨年を上回る生産量で推移しており、本年度末における町内の農畜産物の生産高は史上最高の55億円を超える見込みとなっております。

これもひとえに組合員皆様の営農に取組む強い意欲と日々の大変なご努力によるものと心から感謝を申し上げます。また、生産資材等の価格高騰など厳しい農業情勢の中、組合員の皆様にご

理解を頂きながら進めて参りました当JAの資本増強計画も本年を以て達成することができ、改めてご協力とご支援に衷心より感謝を申し上げますとともに、今後は組合員負担の軽減に向けて一層努力して参りたいと考えております。

農業を取り巻く環境は、燃油をはじめとする生産資材価格の高騰や高止まりにより非常に厳しい状況が続いており、特に米国の干ばつ等の影響による配合飼料価格の高騰は今後の酪農経営に大きな不安を広げるものとなり、当JAと致しましても少しでも経営安定に向けた一助となるよう支援を実施させて頂いたところでです。

また、来年度においても配合飼料費の節減や良質粗飼料確保に向けた草地更新・飼料用とうもろこしの作付けに對する助成などの対策を決定したところであります。

さらには、酪農経営のより一層の効率化を目指したTMRセンター運営の充実やコントラクター体制の検討など、作業のアウトソーシング（分業化に向けた作業外注）の体制整備に向けた取り組みも強化して参りますとともに、近年の豪雪や強風等による長時間にわたる停電時の対策や大規模災害時に對ける営農用水等の確保など緊急時の対策について積極的にも取り組んで参りたいと考えております。

わが国は、昨年12月16日の衆議院総

年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会会長

飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成25年の新春をご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、一部地域での豪雪の影響などにより農作業の遅れなどがありました。その後比較的天候に恵まれ、降雪被害や台風による被害などによって地域や作目による差はあるものの、組合員・JAの努力が報われ総体的には豊稔の出来秋となりました。

さて、平成23年の東日本大震災から

2年が経とうとしておりますが、復興への道筋は決して容易なものとはなっており、また原発事故の収束にも目途が立たず、全国の農業者や消費者は不安を抱えています。JAグループは、被災地の復興に向けてあらゆる支援を続けていくこと、安全・安心な農畜産物を安定的に消費者の皆様にお届けすることに、今こそ協同組合の精神である「絆」を大切にすべく価値観のもとで、

総力を挙げて取り組むことが必要です。なお、今冬は電力不足の可能性から、北海道では今夏の取り組み同様に7%

以上の節電目標が設定されました。もし方の一にも計画停電となった場合には相当の支障が生じることが危惧されることから、JAグループ北海道として節電に取り組んでいく必要がありますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、本年は『協同活動でつくる持続可能な農業と地域社会』を主題に開催した第27回JA北海道大会決議事項の実践初年を迎えます。本大会は向こう3か年間のJAグループ北海道のめざすべき方向を決定し、これを内外に表明するとともに組合員ならびに役員員の意識高揚を図り総力を結集して決議事項の実践を図ろうとするものです。

大会決議事項の「持続可能な北海道農業の実現」では、日本の食料基地北海道として、安全・安心な農畜産物を生産し、安定的に消費者に提供するという使命を果たすために、持続可能な北海道農業の実現に向けて、必要な農業政策を国に求めていくとともに、自らも農業生産を担う多様な担い手の確保・育成、農業生産に意欲を持つて取り組める農業所得の拡大、食の安全・安心対策の実施と環境に配慮した農業の実践に取り組むことを決議しました。

一方、「次代を担う協同の実践」では、JAグループ北海道の組織・事業・経営において、JAの経営を担う次世代の担い手の正組合員加入を促進し、次

選挙において3年3ヶ月間続いた民主党政権から再び自民党政権に交代となりましたが、低迷する景気の向上と疲弊する国内情勢の改善に向けた有効的な政策の実行を期待し、特に多くの課題を抱え、厳しい環境の中で行っている農業に對しては、将来に向けて希望が持てるような対策の実施を強く要望して参りますとともに、TTP交渉参加に関しても現在のところ慎重な考え方は示されておりますが、今後も予断を許さず全国のJAグループとともに一貫して断固反対を強く訴えて参ります。

昨年は国際協同組合年であり、JA全国大会やJA北海道大会も開催され、「協同組合の力で農業と地域を豊かにし、次代へと繋ぐ」という基本方針が決定し、当JAと致たしましても、組合員の皆様のご理解とご協力を頂きながら、役員一丸となって協同の力を結集し、本町農業の持続的発展と農家経済の向上を目指し、農業経営とJA運営の効率化に向けてスピード感をもって取り組んで参る所存でありますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

最後に、本年が天候に恵まれ、災害が無く、稔りの多い年でありますことと、組合員、ご家族皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。新年にあたってのご挨拶と致します。

こと、地域におけるライフラインの一翼を担うものとして、総合事業体の強みを生かし、組合員・利用者（地域住民）から高い満足度を得られるサービスを提供するため、自らがさらなる経営の健全性向上に取り組むこと、加えて、組織を支える人づくりとJAグループ北海道への理解醸成に向け広報活動に積極的に取り組むことを決議しました。

また、TTP交渉参加断固阻止に関しては、多くの関係機関と連携の上、理解促進運動を継続し、組織の総力を結集し不転の決意で徹底して闘うことを特別決議として再確認しました。大会決議に基づく基本目標の具体的な成果に向け、JAグループ北海道の総力を挙げて取り組みましょう。

今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によつては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年も災害がなく、豊稔の秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。

新年の挨拶



JAひろお女性部部长
山本 和美

女性部の皆様、並びに組合員、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年中は女性部活動に對しまして特段のご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が女性部長に就任いたしましたして、もうすぐ2年が過ぎようとしています。この間、私は色々な場所へ出向き、たくさんの方に出会い、多くの経験をさせていただきました。他の地域の女性部長さんたちとの交流や、広尾町内の漁協、商工会の女性の方々との交流などを通して、少し視野を広げることが出来たように思います。

また、昨年は、農協役員の方々の視

察研修に同行させていただき、農林水産省や全国農業協同組合連合会など、女性部の活動だけではおそらく行くことのない所へも行く機会を与えていただき、多くの刺激を受けて帰ってきました。

昨今、女性の組合員・総代・理事など、JA経営への積極的な参加、参画の実現をしようという動きが大きくなつてきています。女性農業者として、農業経営者の良きパートナーとして、女性ならではの視点と意見を持って、JA女性パワーを発揮し、その声を協同活動に反映していけたら素敵だと思います。

最後に、JAひろおをはじめ、各関係機関の皆様には今後ともなお一層のご指導、ご支援、ご協力をお願いし、新年の挨拶と致します。

新年あけましておめでとうございませう



JAひろお青年部部长
岡田 純一

青年部員並びにご家族、関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございませう。

旧年中は青年部活動に對しまして特段のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申しあげます。

昨年は、天候にも恵まれ、まずまずの出来秋を迎えることが出来ました。しかし、農業を取り巻く情勢、環境は益々混迷を極めていきます。化石燃料の高騰、諸外国の干ばつ、中国の躍進など様々な要因にわが国の農業は翻弄されています。中でも、TPPの問題は農業、関連産業、地方の暮らしに大きな影を落としかねないことから、「TPP交渉参加断固反対」私たち青年部も、皆様とともに声高に訴えて参りました。

と思います。

私たち青年部が十勝地区農協青年部協議会に加盟して3年目となりました。今年より十勝地区の全青年部が協議会に加わり、益々交流の輪が広がっております。私たち青年部も他の単組に負けぬよう、精力的に活動していきたいと考えております。我々の活動には周囲の皆様、ご家族のご理解が不可欠でありますので、何卒、ご協力の程宜しくお願い致します。

本年も部員一丸となり、本町農業の発展に向けて一層努力して参りたいと考えておりますので、皆様方の更なるご支援、ご指導をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

第27回 JA北海道大会開催される!!



長はじめ、角倉組合長代行理事、森田代表監事、山本女性部長、大庭参事が参加し、北海道農業の課題などに関する記念講演や今後3年間のJA北海道として取り組んでいく目標や方向性などについて熱心に聞き入っていました。

当日は、(株)資源・食糧問題研究所 代表 柴田明夫氏の「世界の

11月21日、第27回JA北海道大会が札幌コンベンションセンターにおいて全道各地よりJA組合員や役員、連合会、関係機関など約1,500人が参加し、盛大に開催されました。当JAからは萬亀山組合

食料需給の動向と北海道農業の課題について」と題した記念講演の後、主催者を代表して飛田JA北海道中央会会長より「北海道農業が日本の食糧基地として安全安心な農畜産物を生産し、今後とも安定的に提供するためには、持続可能な農業を実現しなければならず、あわせてTPPへの参加は将来に大き

な禍根を残すとし、交渉参加阻止を実現するまで最大限の運動を展開する」と挨拶があり、続いて来賓の高橋はるみ知事、北海道経済連合会の近藤龍夫会長らが祝辞を述べ、議事へと入りましました。

議事の中では、本大会のメインテーマを「協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会」と定め、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」の二つの議案が上程され、これらを基本方針として農業を担う多様な担い手の確保や育成、営農支援機能の強化、農業者が意欲をもつて農業生産を行えるよう、農業所得の拡大に向けた取り組みの強化など具体的な戦略目標の設定、地域社会におけるJAの果たすべき役割の明確化や取り組みの必要性などが説明され、満場一致で承認されました。

また、特別決議案として「TPP交渉参加断固阻止に関する特別決議(案)」が上程され、JA北海道厚生連の西一司副会長が「総選挙を来月に控え、次期政権の枠組みを国民の審判に委ねた中で、野田総理がわが国の将来指針や重大事項を決することは断じて容認できない。



無責任、かつ不誠実極まりない。JAグループ北海道としてTPP交渉参加阻止を実現するまで、組織の総力を結集し、不退転の決意で徹底して闘っていく覚悟である。」と強い口調で読み上げ、全会一致で採択されました。

最後にJA北海道女性協議会の岩永かずえ会長から全ての北海道民に向けて「JAは今後も安心して食べられる農畜産物を提供するとともに、地域住民と一緒にさまざまな活動に積極的に取り組む、事業や活動を通じて、地域住民が安心して暮らせるようにライフラインの一翼を担っていく」とのメッセージが読み上げられ、満場の拍手の中、閉会しました。

川崎 正幸さん 佐藤 孝一さん

2012北海道ホルスタインナショナルショウ (ジャージー種)

シニア・ジュニアチャンピオン受賞祝賀会



佐藤孝一さんジュニア川崎正幸さんシニア ジャージー種
チャンピオン受賞祝賀会

11月29日、2012北海道ホルスタインナショナルショウのジャージー種部門において、シニアチャンピオンを受賞した川崎正幸さんとジュニアチャンピオンを受賞した佐藤孝一さんの受賞祝賀会が広尾町農村環境改善センターにおいて行われました。

会長の乾杯挨拶のあと記念撮影等をおこなわれ、川崎正幸さんと佐藤孝一さんから、受賞の喜びの挨拶と、3年後の平成27年度に北海道で開催が予定されている全日本ホルスタイン共進会への出場にける意気込みが聞かれました。

最後に森田代表監事の音頭で、参加者全員で万歳三唱して閉会致しました。

なお、受賞牛の各共進会でのジャージー種部門における成績は次のとおりです。

ビードモント マーサ ドリア ET号 (川崎正幸さん出品)
 2011北海道B&Wショウ 1位
 第19部 未経産シニアクラス
 ジュニアチャンピオン

2012北海道ホルスタインナショナルショウ
 第21部 3歳以上クラス 1等1席 (ベストアダ)

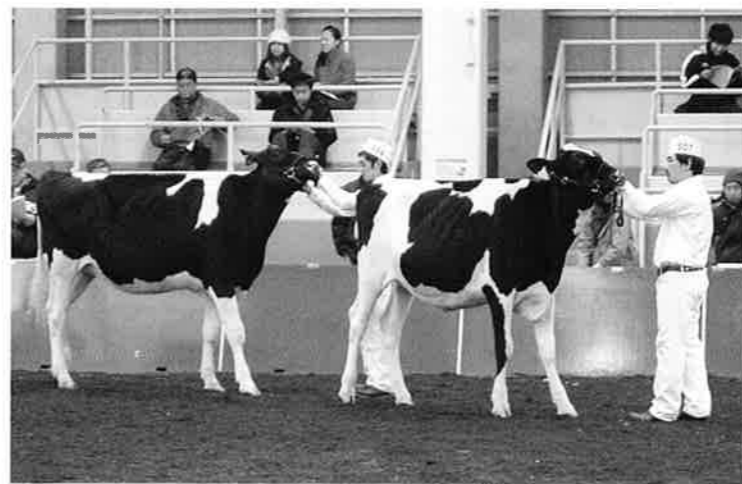
アサナベ IT フォング デザイア号 (佐藤孝一さん出品)
 2012北海道B&Wショウ
 第18部 未経産ジュニアクラス 3位
 2012北海道ホルスタインナショナルショウ
 第19部 未経産シニアクラス 1等1席
 ジュニアチャンピオン

TPPの影響を考える



11月29日、TPPの影響を考える研修会が町コミュニティセンターで開催されました。町内の農協、漁協や商工会など地域の主要団体で作る協議会が主催し、一次産業関係者や一般町民、約140人が集まりTPP問題について、道総合政策部政策局の木本参事よりメリット、デメリットの説明を受け、一次産業に依存している北海道は参加によりデメリットが大きいことと、交渉参加途中で条件が合わないことを理由に離脱するのは難しいのではないかと指摘し、「地域のことは地域で声を上げて」と述べ地域の実情を訴える必要性を強調しました。

2012 北海道ホルスタインウインターフェア



11月3日、北海道ホルスタインウインターフェアが十勝農協連家畜共進会場(音更町)において、審査員に清水町酪農家松原秀雄氏を招き行なわれました。

本町からは、山本勝己牧場、広瀬康史牧場、佐藤孝一牧場の3戸から7頭の出品がありました。

なお、出品牛の主な成績は次の通りです。

北海道ホルスタインウインターフェアの主な入賞成績

クラス	順位	名号	出陳者
カーフクラス	7位	ティーウエーブ GIB ローソリテイ サンアツブ ET号	佐藤孝一牧場
育成ジュニアクラス	2位	レデイスマナー G キャンデイス ティアラ ET号	佐藤孝一牧場
育成ミドルクラス	12位	ウイナーマイン ロイ ウィットニー号	山本勝己牧場
育成シニアクラス	2位	TMF セブテニー チーズ アトウツト フォーゼ ET号	佐藤孝一牧場
育成シニアクラス	24位	アーウインデール ヘンドリカ クインシー RED号	広瀬康史牧場
未経産ジュニアクラス	2位	ドラマチック アシユリン ET号	佐藤孝一牧場
4歳クラス	4位	ウイナーマイン GW レイチエル号	山本勝己牧場
ジュニアゲッツオブザイヤー	3位	アーウインデール ヘンドリカ クインシー RED号	広瀬康史牧場

コンプライアンス研修会



11月17日、第65回農協法公布記念式典終了後、全職員を対象にコンプライアンス研修会が広尾町農村環境改善センターで行われました。

この研修会は、毎年、当JA職員が講師となり不祥事を起こさない職場づくり、コンプライアンスに対する意識の高揚を図るためのもので、今年は千葉生産資材課長が講師となり、最近の不祥事の事例などを交えて講演が行われました。

また、コンプライアンス研修会終了後、「お客様に感動を与える職場づくりをめざして」として、ビジネスマナー研修がJAカレッジから講師を招いて行われ、実践を交えて、挨拶の仕方や敬語の使い方、電話応対などあらためてビジネスマナーを学ぶ機会となりました。

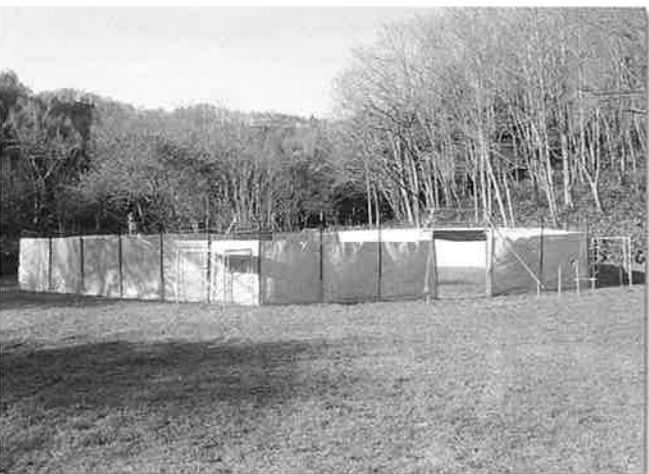
車両整備工場技術講習会開催



11月10日、車両整備工場において、技術講習会が行われました。

この講習会は工場を利用しての組合員を対象に、機械や自動車の簡単なメンテナンス方法について学び、機械や自動車を長く使用して頂くため毎年開催しています。今回は、14名が参加し、講師に榎ジーエス・ユアサバッテリーの恩田課長と松山係を招き、最近多いバッテリー事故の防止対策として、バッテリーの仕組みや充電方法などについて受講しました。受講者の中には女性も多く、講師による説明を実技を交え真剣に話を聞いていました。

囲いわな設置される



本町におけるエゾ鹿などによる農作物の被害は、この数年急増し昨年は1億円を超える被害となり、今年度、関係機関で組織する広尾町鳥獣被害防止対策協議会では国の補助事業を活用し、囲いわなを導入する計画を進めてきたところ、茂寄地区に設置することとなりました。

この囲いわなは、監視カメラ付きでエゾ鹿がわなの中に集まってきたら入口の柵を落とし捕獲する仕組みとなっており、有害鳥獣による農作物被害が増えている中、この取り組みにより多くのエゾ鹿が捕獲され農作物の被害軽減が期待されます。

第43回広尾毛がにまつり

～牛乳消費拡大運動・ホットミルク配布～



12月9日、広尾毛がにまつりがサイイドパーク広尾特設会場にて開催されました。当日は風が強かったものの晴天に恵まれ、毛がにを茹でる大釜の前には、朝から開催を待ち望んだ多くの方々が列を作っていました。遠く札幌や、帯広からツアーで来られる方もおり、一時は会場を埋め尽くすほど人であふれかえりました。

行われ盛り上がりを見せていました。町内農業生産者からは黒毛和牛のステーキ、ハンバーグなどの販売や、ほうれん草、小松菜など野菜類の販売を行いました。

又、当JAより、ホットミルク、ホットコーヒー牛乳の無料配布、雪印メグミルク株よりクリームシチューの無料配布を行いました。寒い会場でのホットミルク、クリームシチューは大変好評で、多くの方に喜んで頂き、牛乳のおいしさを大いにアピール出来ました。

第14回ミルクフェスティバル



11月30日、今年で14回目を迎えたミルクフェスティバルが広尾町農村環境改善センターで開催されました。

麻布大学獣医学部獣医学科衛生学第一研究室の河合一洋氏を講師に招き、「乳房炎の発生要因の分析と防除対策」と題して講演が行われました。

この中で河合氏から乳房炎の原因菌の特徴や発生のメカニズムについて、また搾乳システムの点検や正しい搾乳方法について実際に行われた試験結果のデータを基に説明がありました。

講演の最後に質疑応答が行われ、酪農家から「乳房炎の投薬方法について」や「盲乳にするタイミング」等の質問に対して、河合氏が丁寧に回答しておりました。

講演終了後は昼食に合わせて懇親会が行われ、ミルクーズから提供されたチーズやケーキ等乳製品を使った料理の試食により懇親を深めました。

講演会について内容の確認や資料を希望される方は、営農販売課までお問い合わせ下さい。